

令和5年度 第4回 上島小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月9日（金） 14時00分から16時00分
- 2 開催場所 上島小学校 会議室
- 3 出席委員 黒柳 寿一、青木 榮治、大橋 薫、山本 暢子
小板 喜世子、鈴木 知美、池村 俊典、森園 大介
- 4 欠席委員 安川 彰一、平野 昌
- 5 オブザーバー 大平 智（曳馬協働センター）
- 6 学 校 山本 千興（校長）、武田 良子（教頭）、
山内 剛治（主幹教諭）、高橋 靖人（担当）
- 7 傍 聴 者 2名
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 清水 遥

9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、青木委員から黒柳会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 学校評価と次年度への改善策等、及び学校関係者評価
- (2) 令和6年度の学校運営の基本方針(案)
- (3) 学校運営協議会委員の自己評価
- (4) 令和5年度「夢育やらまいか事業」
- (5) 「浜松市立上島小学校いじめ防止基本方針(案)」

11 会議記録

司会の高橋から、委員総数10人の内8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校評価と次年度への改善策等、及び学校関係者評価

- ・項目④について、教師の評価が前期と後期で落ちている理由。項目①について、保護者と教師の差が大きいのはどう考えているか。また、保護者同士のつながりづくりを具体的に。(森園委員)
- ・項目④について、学校生活に慣れてきて安全面に注意が必要。安全面について学期の始めに指導する。運動場の使い方を子供たち目線で話し合った。その結果を来年度に生かす。項目①については、児童の言葉遣いが課題と感じている教員が多い。保護者同士のつながりをつくるために、懇談会の実施を検討している。また、運動会の保護者ボランティアなどに参加していただくことでも交流が生まれると考えている。皆さんのアイデアをいただきたい。(主幹)
- ・項目⑰ 3%は、そう思ってない。100%になってないのが残念。項目⑮ いじめは許さないクラスづくりが大事。(黒柳委員)
- ・児童側からいじめは良くないと言える場面を増やしていくのが必要だと考えている。(主幹)
- ・項目⑦学校楽しく通っている。教員は100%で、児童の方が低いというのは、順番が違うのではないか。子どもたちが100%になってこそだと思う。慎重になるべき。(青木委員)
- ・子供たちが楽しそうにしているにも注意をしなければいけないと思っている。(主幹)

- ・校長が目指す「温かい学校風土の醸成」について、アンケート結果からも成果が出ているように思うので現状を続けてほしい。児童が主体的、自主的に活動できる機会が多くあるからだと思う。(森園委員)
- ・地域では、昔のようにイベントや集会等を実施することが難しいが、できる範囲で続けて交流を広めていきたい。(黒柳委員)
- ・保護者はやってもらって当たり前と思っているが、学校側は限度がある。人数が足りない。無理があるという負の部分もさらけ出して、保護者や地域に助けをもらう必要を感じる。(大橋委員)
- ・本年度、運動会を四ツ池陸上競技場で行うことに、不安もあったが保護者ボランティアを募集したところ、100名近くの方が集まった。協力を求めることの必要性を感じた。(主幹)
- ・それぞれの学習で、保護者のサポートが得られるのではないかと。学校の中にどんどん入ってきてもらいながら、保護者同士がつながってアイデアが生まれると良い。(校長)

(2) 令和6年度の学校運営の基本方針(案)

- ・全体的にはとてもよいと思う。働き方改革。時短勤務職員が増えている。担任には朝から晩まで一日いてほしいと願ってしまう。この点は丁寧な説明が必要。理解を求められるように事前にしっかりと伝えるべき(森園)
- ・権利として時短勤務は存在し、とることはできる。采配と説明が必要。(校長)
- ・朝、校長が子ども達と話している姿がとても素晴らしい。4年生が参観会の中で、将来の夢を語っていた。聞く姿勢も素晴らしかった。昨年度より成長を感じる。その成長を教員はどのようにフィードバックしているのか。教員、保護者が一人一人を認める言葉があるとさらに「温かい関係」が築けるのではないかと。(山本委員)
- ・議長をより承認を求める拍手。拍手多数により承認。

(3) 学校運営協議会委員の自己評価

- ・事前にとりまとめたものを確認し、公表をしていく。(議長)

(4) 令和5年度「夢育やらまいか事業」

- ・四つ池で行うことで全児童が集まり意味のあるものだった。(黒柳委員)
- ・地元の競技場を使うことはよいことである。(青木委員)

(5) 「浜松市立上島小学校いじめ防止基本方針(案)」

- ・保護者と学校の「いじめ」に関する共通理解が必要(黒柳委員)
- ・ホームページに「いじめ対策基本方針」をアップしたことを周知すれば、家庭も見るとは思わないか。(森園委員)
- ・子供からいじめの話題が出た時に、経験則で話してしまう。子どものSOSを受け止めるためには保護者も勉強が必要だと感じる。(森園委員)
- ・今の「いじめ」を本当にこんなこともとりあげなくてはいけないのかと願ってしまう一面がある。何でもかんでも「いじめだ。」と過剰反応をしてしまうのではないかと懸念している。(黒柳委員)
- ・「いじめ」の判断基準は「つらい思いをしている」だということは、本人が「いじめ」だと思わないが、見ている者が「不快」だと感じていても「いじめ」になるのではないかと。(青木委員)